

# 肺がん

## 【集学的治療の実施状況】

### 呼吸器内科：

気管支鏡による確定診断を積極的に行い、CT・MRI・シンチグラフィーなどを用いた全身検索で病期を診断し治療方針を決定しています。近年は組織型やがん細胞の遺伝子異常の有無により治療方針が異なるため、超音波気管支鏡や極細径気管支鏡などの特殊な機械を用いてより確実な検体採取を試みています。治療としては外科治療、化学療法、分子標的薬治療、放射線治療などを呼吸器外科や放射線科と連携して行っています。

### 呼吸器外科：

組織型・臨床病期および耐術能を評価し、外科治療を行っています。また、病理病期により、術後補助化学療法を主に外来で行っています。

手術件数：36例

術後補助化学療法実施数（入院／外来）：4回／20回

### 放射線科：

画像診断と放射線治療を行います。

### 栄養サポートチーム（NST）：

医師、栄養士、看護師、薬剤師等が一丸となって栄養面をサポートしています。具体的にはがんによって食事が摂れなくなった患者さんに適切な栄養について検討しています。週一回の回診とカンファレンスを行っています。

### 緩和ケアチーム：

緩和ケアチーム、麻酔科、心療内科、各診療科、NST チームが協力して集学的治療を行っています。

緩和ケアチーム(医師、認定看護師、認定薬剤師等)が中心になって、病状、患者の思いを把握して、多職種で連携して苦痛を緩和します。

## 《準じているガイドライン名》

肺癌診療ガイドライン 2013 年版（日本肺癌学会）

E B M の手法による肺癌診療ガイドライン 2012 年版（日本肺癌学会編）

がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年版（日本緩和医療学会）

苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン 2010 年版（日本緩和医療学会）

終末期癌患者に対する輸液療法のガイドライン 2013 年版（日本緩和医療学会）

がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 2011 年版（日本緩和医療学会）

がん患者の呼吸症状の緩和に関するガイドライン 2011 年版（日本緩和医療学会）

がん性痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

在宅緩和ケアガイドブック 2008 年版（日本緩和医療学会）